

自立活動 小学部の取組

小学部では、療育指導室を活用して自立活動に取り組むことがあります。仮設校舎の新しい療育指導室は、とても広く様々な活動を展開することができ、児童らが指導者や友達と関わりながら、個々の課題に合わせた取組によって力をつけています。今回は、新しい療育指導室の様子とともに、小学部低学年の取組の一部を紹介します。



☆『金魚はどこ？』（環境の把握・コミュニケーション）

教室の色々な場所に隠れた「金魚」を探し集める活動をしているところです。隠れていそうな場所を「今日はここかな」とワクワクしながら自分で考えて探し、「～の上」「～の中」と位置関係を表す言葉を体験的に学んでいきます。指導者の視線や動き、ヒントの言葉から読み取ることで、コミュニケーション力の向上もねらっています。広い教室の中を走って体を使いながら探すので、全部揃ったときには達成感もいっぱいです。



☆『ヒーローになってチャレンジ！』

（環境の把握・身体の動き・コミュニケーション・人間関係の形成）

毎朝の学級での指導の様子です。発達段階に合わせて「ごっこ遊び」を展開し、友達との関わりや体の動きを促す取組をすることがあります。戦いごっこでは、自ら作ったルールを守り、友達を助けたり協力したりするように働きかけて、友達との関わり方を学べるようにしています。スイング（遊具）をバイクに見立てて素早い乗り降りに挑戦したり、ヒーローになりきって大きな跳び箱を格好良く跳び越えたりすることで、体の動きも上達していきます。敵役の指導者に向かっていくときには、手加減を求められるので、自ずと力のコントロールを身に付けることができます。



☆『一緒にやってみよう!』

(環境の把握・身体の動き・人間関係の形成)

移転とともに新しくなったトランポリン。サイズが大きいので3～4人で使うことができ、感覚ニーズの充足だけでなく、互いの動きに合わせて跳んだり楽しさを共有したりすることで、友達への意識が育まれていきます。ハンモックスイング等、それぞれに好きな遊具でしっかりと遊び込めば、友達がしている楽しそうな他の遊具にも興味をもって遊びを広げていくことができます。



☆『ほっこりスペースで体も心もリラックス』

(環境の把握・心理的な安定・人間関係の形成)

療育指導室はカーペット敷きなので、入口で靴の履き替えをしますが、靴箱は構造的な工夫をして設置しています。靴を入れたり揃えたりすることも大切な学習のひとつで、楽しみなことが待っているからこそ、主体的に取り組むことができます。早く遊びたい気持ちを抑えつつ取り組むので、行動をコントロールする力をつけることもできます。

おもちゃスペースやリラクゼーションスペースもあり、それぞれの好きな遊びを広げながら指導者や友達とのやりとりを大切にしています。